

大阪府保育士会だより

平成21年12月1日

第83号

大阪府社会福祉協議会

保育部会・保育士会

大阪府中央区中寺1-1-54

TEL 06-6762-9001

ほほえみ



大阪府保育士会50周年記念講演開く

次の世代の子どもたちへ「えがおでつなく」

—— 各界からの指導・応援に支えられ



大阪府保育士会50周年記念講演が11月18日（水）、大阪府北区の大阪国際会議場で盛大に行われました。はじめに、大阪府保育士会の大西潤子会長が挨拶、参加者全員で「全国保育士会倫理綱領」を唱和して開会しました。

まず、大阪府保育士会の50年をまとめた映像（DVD）を見ながら懐かしい歴史をふり返りました。



続いて、安田祥子さんからの「子どもたちに伝えたい美しい日本の歌」と題した講演を聞きました。

最近、家庭では子どもたちに守唄を歌って聴かせることが少ないので、たとえ5分でもいいから子どもの目を見て歌を歌っていただきたい。また、映像と一緒に歌を聴くことが多く、想像するということ、思い描くことが必要なくなってきたことを懸念され、このことは人の心を慮るゆ

とりが少なくなってきたという一因ではと述べられました。

安田さんはさらに「赤とんぼ」の歌を100人が聞いたら100枚の絵が描ける、このような日本の美しい情景を表している歌はぜひとも残してほしい、と切に願っておられました。

講演のあとは、真っ赤なドレスに着替えての安田さんのミニコンサート。

「歌のカレンダー」と題したメドレーは、どれも保育園で歌う季節の歌で、みんな一緒に「もみじ」を歌い楽しいひとときを過ごしました。保育士たちのアンコールの拍手には「初恋」で応えられました。この美しい日本の歌を子どもたちに伝えていきたいと思われました。

記念式典はリーガロイヤルホテルに場所を移し行われました。

式典に先立つオープニングには文楽から正月定番の幕開き演目「花競四季寿（はなくらべしきのことぶき）」から繁栄と長寿を寿ぐ「万才（まんざい）」を鑑賞しました。

式典と懇親会は、大阪府保育士会の大西潤子会長、保育士会の親会である保育部会の永野治男部会長の挨拶の後、来賓の橋下徹大阪府知事からご祝辞をいただきました。また、大阪府議会議員の皆様、研修会などでご指導いただいた専門家の先生、近畿の保育士会の

せました。武内茂子大阪府保育士会名誉会長と、多くの貴重な資料を提供していただいた大仙保育園の柳川落穂先生からは、当時のエピソードやこれからの保育士会への期待を込めたエールが贈られました。



この式典を通して先輩方がつなげてこられたこの大阪府保育士会の歴史を、次の世代へ「えがおでつなく」ために、そして何よりも子どもたちの笑顔のために頑張っていきたいと改めて思いました。

祝宴は、大阪府議会議員、若林まさお氏の発声で始まり、和やかなうち各テーブルでは思い出話に花を咲かせました。

大阪府保育士会50周年記念の式典と集いを、心からお祝い申し上げます。本当に感無量です。是非出席したいと思っておりましたが、高齢の上、病に倒れ、一度入院をいたしました。

6月退院後は

待 申 込 び

場 場 の 支 援 に 取 り 組 ん で 下 さ

在宅で生活を送っています。医師の体力的に無理だといふ見解で欠席いたしますこと、本当に残念でございます。

ふり返ればいろいろなお切に祈っています。

皆様の「ご健勝とご活躍を、切に祈っています。」



「子どもは真の宝物」と

藤岡 弘 氏

第53回 全国保育研究大会

第53回全国保育研究大会は「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」をテーマに11月11日から3日間、全体会と12分科会にわかれて、愛媛県松山市の県民文化会館と同市内の会場で行われました。

初日は式典に続いて、厚生労働省からの行政説明、特に政権交代後の動きについて詳しく説明されました。そのあと小川益丸全国保育協議会会長から「保育をめぐる動向と全保協の取り組み」について基調報告が行われました。

分科会では、「楽しく歌ってお手玉を、手から心へぬくもりを、保育に生かそうお手玉遊び」を



テーマにした第7分科会に参加し、日本お手玉の会会長の宮中雲子氏が「なぜ今お手玉なのか」について印象深い話をされました。お手玉は4千年前のエジプトの壁画にすでに描かれ

ており、日本には、はじめ石のお手玉として奈良・平安時代に入ってきたそうです。今でも老若男女を問わず楽しみながら心とからだを癒してくれる伝統あそびなので、これからも傳承していかなければいけないと思います。

3日目の記念講演は、俳優の藤岡弘氏が「子どもこそ真の価値ある宝物」をテーマに子どもは天からの授かりものであり、愛してあげることの大切さについて熱弁されました。

(東大阪市 たいよう保育園)



保育要録の記入法や保護者支援をテーマに

保育士研修会



保育士研修会が9月10日、「保育要録について／保護者支援／保育士に期待される役割と課題」をテーマに大阪社会福祉指導センターで開かれ、大阪府保育士会



保育士研修会が9月10日、「保育要録について／保護者支援／保育士に期待される役割と課題」をテーマに大阪社会福祉指導センターで開かれ、大阪府保育士会

の大西潤子会長が「保育要録について」、日浦直美氏（関西学院大学教授）が「保護者支援」について、それぞれ講義をしました。

保育要録について大西会長は、事前に記入した要録をもとに、適切な記録のやり方を説明。その中で、家庭環境などには触れず、児童自身に関わることのみを記入すること、その子のプラスになる点や児童の特性

をを活かした援助の方法に重点を置くことが大切と強調されました。

日浦氏は保護者支援について、まず保護者のなかに

は過干渉・虐待など自己中心的に考えがちな人も少なくない実情をあげ、子どもを「授かる」から「つくる」

うに、自分の思い通りになると思い込む風潮も背景にあると指摘されました。



(泉佐野市 なかよし保育園)

子育てがうまいいかず思いつめる保護者も多く保護者は保護者の声に耳を傾けることを常に意識し、保護者がその悩みを率直に話せるような環境をつくること、同僚とは保育の自身についてぶつかり合い、自分に対しては課題と向き合い納得していくことが、保護者とのよりよい関係をつくり、子どもの最善の利益の保障につながる」と述べられました。

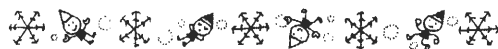
第43回全国保育士研究会が10月26・27日の両日国立京都国際会館で開催されました。

初日の全体会では全国保育士会の上村初美副会長の基調報告、休憩を挟み、「保育士のキャリアデザイン」をテーマにシンポジウムが行われ、大妻女子大学学長の太場幸夫氏をコーディネーターに、パネリストの日本看護協会常任理事の浜愛子氏、山梨立正光正園統括施設長の加賀美犬祥氏、全国保育士会の御園愛子会長らが活発に意見交換されました。

専門職としての責務など意見発表

第5分科会

— 第43回 全国保育士研究大会 —



理想の職員像とは、職員自身の話し合いの中で①子ども一人ひとりを大切に思う職員②保育の専門性の向上に努めている職員③笑顔で人と接することのできる職員④常に向上心をもって学ぼうと努める職員⑤子どもを受容しようとする職員と指摘されました。みんなが思うところは共通していると感じました。午後からは各グループに分かれての事例発表が行われました。

(東大阪市 たいよう保育園)



2日目の分科会では、職員の質の向上をはかる「専門職としての責務と研修等」をテーマに発表があり、第5分科会に参加しました。石川県のコスモス保育園は「自己評価のあり方」、沖縄県の小湾保育園は「各園における研修体系」について

のそれぞれ報告。助言者は共立女子大学教授の大嶋恭二氏。

保育の学びシリーズ⑭



保護者支援について

大阪府立大学 里見恵子氏



第1回では、障がい受容の告知を受けて受容し再起に至るまでのプロセスがあることを述べた。第2回は、障がいの認識や受容がある程度できて入園している保護者との連携を中心に述べていく。



最近では障がいのある子どもの早期発見早期療育が進んでおり、療育機関を経て保育所に入所する子どもも多く、保護者が障がいについて理解し、支援方法についてもすでに学んでいることも多い。このような場合には、保育所や保育士に全てを任せようと考え、積極的に連携をとっていくことが望ましい。

まわりの情報収集と方針を立てておくことが求められる。入園後は、保護者として可能な場合は療育機関のスタッフも含め、個別の指導計画を作成する合同会議を年に数回行い、保護者の思いや子どもの特性に沿った支援方法について合意形成を行い、さらに成長の姿や課題などについての共通の理解を図っていく。

また、広汎性発達障がいの子どもに取り入れられている視覚支援の方法などは、年齢や発達に合わせて、使い方を覚えていくことが求められる。さらにパニックや自傷行為など問題行動の支援についても、対処方法を誤ると問題を大きくしてしまうことがある。これらについては、対象児が通う療育施設や指導機関と連携をとり、一貫して取り組むことで適切な支援につながる。専門機関との連携に関するなど、当事者の意向を大切に取組んでいくことが求められる。



子育て支援シリーズ⑮

お母さんたちのサークル・ボランティア活動を応援



たちばな保育園は、茨木市の中心部に位置し、定員150名の保育園です。近隣には子育て支援を実施する公共の施設や保育所、団体も多いので、当園での園庭開放の参加人数も少なく、子育て支援をどのように展開していくかと考えていました。

4年ほど前に、乳幼児をもつ母親たちが立ちあげたサークルやボランティア活動で子育て支援をされている人と、活動の内容や問題点、悩みなど話し合う機会がありました。みなさんから、活動がマンネリ化している、限界がある、求められる内容が専門的で、行き詰まりやしんどさを感じる、このため一園から出向い

て活動内容の支援をしてみましょうか」と提案したところ、希望される方も多く実施に踏み切ることにになりました。

まず、保育に支障がないように職員や非常勤職員の配置を考え、支援内容をリトミックやふれあいあそび、造形あそびを中心に行ないました。

参加された親子はリトミックや簡単な体操、手遊びで思いきり体を動かすので、気もちも発散されています。手作りのおもちゃづくりは、身近な材料や園で使用する教材も紹介し作成するので興味や関心も高く、大型絵本や手作り紙芝居でのお話も楽しみにされています。

今では、看護師による歯磨き指導、個別の健康指導、育児相談、栄養士の栄養指導と手作りおやつ、レシピにも人気があり、参加者からも喜ばれており、当園では子育て支援事業の充実を図っています。

また、サークルのお母さんの中に、音楽を得意とされる方もおられ、園の誕生

会に楽器演奏をお願いしたり、サークルを卒業され保育に興味があるお母さんたちには、子育て支援の育成に繋がればと思います、園でのボランティア活動を勧め、行事前や子育て支援の日に保育の補助を依頼したりして、お互いに助け合ったり、刺激し合ったりするような関係になっています。

支援の活動は、集中する月もありませんが、月1、2回程度の出前保育から、民生委員、児童委員が主催する子育て支援の依頼を受け、徐々にですが幅広くつながりを深めています。これからも、地域のニーズに合わせた子育て支援を展開していきたいと考えています。



(茨木市 たちばな保育園)



誉田保育園は応神天皇を祀っている誉田八幡宮のすぐそばにある自然たっぷりの定員120名の保育園です。広い園庭では日々、遊具や三輪車、かけっこなど

楽しい保育活動

よいやさあ、よいやさあ
～鐘や太鼓、掛け声もにぎやかに「だんじり曳き」



伸び伸びと身体を動かして元気がいっぱいの子どもの歓声が響いています。四折折々の数多い行事の中

でも、子どもたちが楽しみにしているのは、地元のお祭りに合わせて保育園のだんじり曳きです。

地元のだんじりは、2日間わたり地域を練り歩き、鐘や太鼓の音を響かせます。その後、3歳・4歳・5歳児が保育園のだんじりを「よいやさあー、よいやさあー」の掛け声とともに町内を練り歩きます。太鼓や鐘をたたく子、綱を引っ張る子、どの子も笑顔でいっぱいです。

近くの老人保健施設に立ち寄りですが、おじいちゃん、おばあちゃんも楽し

にしてくれています。

このように地域の方との触れ合いを大切に、みんなで協力しあって一つのことをやり遂げる大切さも学んでいます。

子どもたちの心と身体のパランスよい成長を願い、これからは保育者自身も向上心を忘れず保育に専心してゆきたいと思っています。
(羽曳野市 誉田保育園)

保育のあんな工夫 こんな工夫

“お手伝い”でみんな笑顔のスマイル活動

脇浜保育園は家庭的なぬくもりの中で「思いやりのある子どもの育成」を保育目標に掲げ、その達成の手段の一つにスマイル活動を行っています。

スマイル活動とは、お手伝い活動のこと。手伝いを

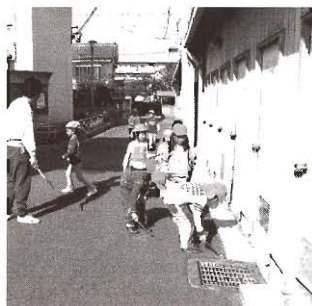
する側、される側みんなが笑顔になる取り組みです。

職員、園児全員が脇浜ファミリーの一員として、ある時はお母さん、ある時はお兄さん、お姉さんとなるのです。園内は、それぞれが必要とされる喜び、家族のように甘えることができる喜び、相手への感謝の気持ちで満ちあふれています。

具体的な活動内容は、年



園外清掃活動で「子ども力」発揮中



園外清掃活動で「子ども力」発揮中



地域とともた



“つきたてお餅に 幸せの輪”

12月に地域の方にお手伝いいただく恒例のお餅つきは今年で33回目になります。地域の高齢者や親子、卒園児、在園児の親子と共に餅米を蒸して、ついて、丸めて、そして、できたて

れるなど「子ども力・保育園力」を発揮中です。清掃トングやゴミ袋を自分たちで準備もでき、ごみを捨てない、汚さない子どもたちに育ち、地域の方々からも高い評価をいただく日々です。
(八尾市 あい桂保育園)



希望の年になりますように... また今年も大きな幸せの輪が広がります。
(堺市 わんぱく保育園)

育ち環境向上へ地域の一人として取り組みを進めています。支援をいただくばかりではなく、子どもたちや職員による地域貢献も大切にして、散歩や遊びにも頻りに園外清掃活動を取り入

「給食の食器洗いの手伝い」「トイレ掃除」にもチャレンジ。掃除をするようになってから、「トイレはきれいに使う」「スリッパは並べるといった社会的ルールを自主的に守る気もちが芽生えてきました。

食器洗いは、調理師から洗い方を教わり、家庭でも食器を洗っているようです。これからもスマイル活動を通し、脇浜保育園という

3年前からはスマイル活動の幅を少しずつ広げ、



(貝塚市 脇浜保育園)

編集後記

大阪府保育士会50周年事業も、皆様のご理解ご協力のおかげをもちまして、大功のうちに終えることができました。本当にありがとうございました。これからも皆様のお力で子どもたちの育ちに寄り添うあゆみが続けるようご支援をお願いします。

今年も残り少なくなり、年末年始をお過ごし下さい。来年の新年が素晴らしい年でありますことを祈願申し上げます。